

「スターウォーズ」「宇宙戦争」2大SF映画公開記念企画

企画・文…下村綾子
イラスト・デザイン…下川恵

飛び出せ宇宙人!

映画が誕生して110年。SF映画は数多くあれど、その描き方は本当にさまざま。さてさて、どんな宇宙人が地球にやってきているのか、ちょっとのぞいてみましょう。

おともだち

編集部による独断と偏見のチャート

凶悪

ニューヨーク東8番街の奇跡

1987/107分/アメリカ
小さなUFO生物(1)夫婦が登場。やがて子供も生まれてしまうという、驚きの展開。住人たちが立ち退きを迫られる、NY下町の安アパートを舞台に、彼らが住人を励まし地上げ屋から守る、温かくもささやかな物語。



E.T

1982/115分/アメリカ
人差し指をくっつけあって「E.T.!».これ、誰しもがやった(もしくは知っている)のではないだろうか、ってくらい流行りましたよね。ちなみに、E.T.は【Extra-Terrestrial】、地球外(生命体)の意味。



ハワード・ザ・ダック

1986/111分/アメリカ
最低な映画に与えられる大変不名誉な「ゴールデン・ラズベリー賞」。本作品はその年最多の7部門でノミネート、うち4部門で受賞(!)している。アヒルの着ぐるみに入っていた男女6人までがワースト新人賞を受賞しているカルト的な映画。アヒル星人のハワードが可愛くない!とこけおろされるが、なかなか面白いです。吹替版では所ジョージがハワードの声を担当。

UFO少年アブドラジャン

1992/88分/ウズベキスタン
1994年に東京で開催された「中央アジア映画祭」で上映されるヤカルト的な人気を呼び、その後伝説となっていたウズベキスタンのSFコメディ映画。釣り糸が見え見えの鵜型UFOが登場(だけどソビエト軍全面協力)。



宇宙人東京に現わる

1956/87分/日本
日本特撮初の本格的カラーSF映画。岡本太郎デザインによる、ヒト型型にひとつ目のパイラ人は独創的でかなりキューート。岡本先生が「宇宙人がヒト型型でもいいじゃないか!」と叫んだとか叫ばないとか…真偽のほどはさだかでない。

なかなか楽しかったと思います。内容的には「バカ映画」(ホメ言葉)になりそうで、ぎりぎりになっていないといったところでしょうか。

実行委員(オススメ!)

未知との遭遇

1978/135分/アメリカ
「第三種接近遭遇」を正面から描いた作品(元米空軍UFO顧問ハイネック博士によって提唱された接近遭遇分類というものがあるらしい。「第三種はUFOの搭乗者を目撃、さらに彼らとの肉体的接触さえ行った状態」。音と光によるコミュニケーションは新しかった。登場する宇宙人は細長い手足に大きな顔というノーマル(?)な造形。



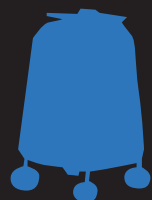
2001年宇宙の旅

1968/139分/アメリカ・イギリス
スタンリー・キューブリック監督によるSF映画の金字塔。多くの人々が共有している宇宙人のイメージである「グレイ」の造形モデルは、本作品に登場するスターチャイルドともいわれている。また、没デザインとなった宇宙人が、スピルバーグ監督の『A.I.』に登場しているとか。旧文部省が特薦に指定した唯一のSF映画らしい。



不思議惑星キン・ザ・ザ

1983/134分/イギリス
キン・ザ・ザ星雲の惑星ブリュクに飛ばされてしまった男二人組。腰を落として行うこの星特有の挨拶はインパクト大(土下座並みの屈辱的な挨拶という設定なのだが)。思わず「クー!」と叫びたくなること間違いなし。飛行艇や地下都市などのデザインが前衛美術のように個性的。



実行委員(オススメ!)

いわゆるB級な作品ですが管理・消費社会(すなわち私達の世界)に対する批評イメージは鮮烈。チープである事で真の批評性を持っていると思う。

ゼイリブ

1988/96分/アメリカ
顔が骸骨みたいなエイリアン(名称は不明)が登場。世界のエリートはいつの間にか異星人にとって代わられていたという地球侵略もの。かの淀川長治氏が「プロイ特的」と評したそう。



サイン

2002/107分/アメリカ
1000万ドル以上もの値がついたという脚本、そしてぶつとびの結末。さまざまな物議を醸した本作品は、笑ったもん勝ちのような気がするが、いかになものか。なお、このエイリアンは水に弱い。ちなみに撮影で使用されたトウモロコシ畑は、半年前から種が蒔かれ最終的に実ったトウモロコシは近くの中学校や各種団体に寄付されたそう。

マーズアタック!

1996/105分/アメリカ
脳が巨大でむき出し、骸骨のような姿の火星人が登場。ネバダ州の砂漠に着陸している。ティム・バートン監督は、この火星人の造形に際し「悪者と言うより、バッド・キッズを意識した」そう。



SF/ボディ・スナッチャー

1979年/115分/アメリカ
植物に似た地球外生命体が登場。宇宙人に侵略憑依されていく住民たちの恐怖。『ボディ・スナッチャー/恐怖の街』(1956年)、『ボディ・スナッチャーズ』(1993年)など何度もリメイクされているSFホラーの傑作。怖いんです…これが。

今後はこんな宇宙人に会える
おまけ 9/10(土)ロードショー
『銀河ヒッチハイク』

太陽系を通る銀河ハイパスの建設(1)のため、無数の宇宙船に地球はあっけなく爆破されてしまった。運命のイタズラにより生き残ってしまったヒロインを待ち受けているものは…伝説のカルトSF小説待望の映画化。

宇宙人マメ知識

初めての宇宙人

世界初のSF映画はジョルジュ・メリエス監督の『月世界旅行』(1902年)。セレナイトという月の人が登場している。

火星人のイメージ

イギリスのSF作家、H・G・ウェルズが1897年に小説「宇宙戦争」を発表し、そこに登場したタコのような火星(高度な知を持つため頭部は大きく、重力が少ないため足は細く設定されたいい)が世間に定着したもよう。

『市民ケーン』で有名なO・ウェルズ監督は「宇宙戦争」のラジオ・ドラマ放送中に火星人来襲のニュースを挿入。そのリアルさに、アメリカ全土でパニックを引き起こした。あの筑紫哲也氏も、エイプリルフールに「宇宙人との交信に成功した」という嘘のニュースを読んだことがあるそう。

宇宙人パニック

『市民ケーン』で有名なO・ウェルズ監督は「宇宙戦争」のラジオ・ドラマ放送中に火星人来襲のニュースを挿入。そのリアルさに、アメリカ全土でパニックを引き起こした。あの筑紫哲也氏も、エイプリルフールに「宇宙人との交信に成功した」という嘘のニュースを読んだことがあるそう。